

「室蘭港港湾施設群」が「土木学会選奨土木遺産」に認定されました

室蘭市 港湾部

室蘭港の歴史的な港湾施設が、令和4年度土木学会選奨土木遺産に認定(9月9日)されました。室蘭港としては初の認定となります。

室蘭港港湾施設群は、国内有数の石炭積出港として我が国の近代化と鉄の街の飛躍的發展に貢献した港湾の歴史と技術を伝える構造物群です。

名称：室蘭港港湾施設群

構成施設：1. 南防波堤、2. 北防波堤、3. 旧大黒島灯台、4. 旧国鉄ふ頭(現入江フェリー埠頭)、5. 旧北荷ふ頭、6. 本輪西ふ頭(栗林商会専用埠頭)、7. 北日本ふ頭

管理者等：北海道開発局、室蘭市、室蘭埠頭株式会社



室蘭港港湾施設群位置図(室蘭開発建設部提供)

室蘭港港湾施設群の概要

- 1875(明治5)年、札幌と函館を結ぶ海陸交通の結節点として室蘭に港が開かれ(2022(令和4)年で開港150周年)、船舶の航行の安全のため、1891(明治24)年に大黒島灯台が設置された。
- 1892(明治25)年には岩見沢との間に鉄道が完成し、室蘭港からの石炭の積出が始まった。また、この石炭と噴火湾周辺の砂鉄を利用し、明治40年代初めには製鉄所・製鋼所が室蘭で操業を開始した。石炭・

- 鉄鋼製品を積む船舶が港内で安全に停泊・荷役できるよう、1918(大正7)年に南防波堤、1921(大正10)年に北防波堤の整備が始まり、ともに1927(昭和2)年に完成した。両防波堤の構造形式は、小樽港などで実績があるものの道内の太平洋側では初となるケーソン式混成堤。本体となるケーソンは、室蘭築港事務所構内の斜路式ケーソン製作ヤードで製作された。
- 防波堤完成後、石炭以外の貨物量も増えたことから、荷役作業の効率化のため栗林商会が自社専用の本輪

西ふ頭を建設。ふ頭の建設には北海道の岸壁で初めてケーソンを使用。ケーソンは築港事務所の施設を借り上げて製作した。また、後のふ頭拡張工事では、北海道初となるプレパックドコンクリート工法による鉄筋コンクリート構造が採用された。

- 増大する石炭積出量に対応すべく、1934(昭和9)年に国鉄ふ頭、1940(昭和15)年に北荷ふ頭が建設された。その後、エネルギー政策の転換等により石炭の取扱がなくなると、国鉄ふ頭を再編しフェリーふ

頭に転用。再編の際に不要となったケーソンは外防波堤の本体に流用された。また、フェリーふ頭の一部の岸壁は、国鉄ふ頭時代の本体はそのままに、耐震強化改良が施された。

- 1959(昭和34)年、東北電力が自社の火力発電所向けに道内炭を自社調達すべく、北日本ふ頭を建設。本体は、本輪西ふ頭の拡張工事と同様にプレパックドコンクリート工法による鉄筋コンクリート構造が採用された。(現在は室蘭市が管理)



室蘭港港湾施設群の概要(室蘭開発建設部提供)

令和4年度 港湾空港関係功労者表彰及び海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰を行いました

北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課

北海道開発局では、様々な団体と連携した港湾空港整備事業の効果的な推進を目的として、「北海道開発局港湾空港関係功労者表彰」及び「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」を実施しています。

今年度の「港湾空港関係功労者表彰」は、小針土建(株)の小針武志社長に、また、「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」は、(株)森川組及び北海電気工事(株)稚内営業所に決定し、8月2日(火)表彰式が執り行われました。

表彰式では、北海道開発局鈴木港湾空港部長から表彰状が授与され、その功績を讃えるとともに、改めて感謝の意を表する挨拶がありました。

各受賞者の皆様からは、これまでの港湾整備事業に係る企業活動や清掃活動を振り返り、東日本震災後の

清掃活動など印象深かった思い出を話されるとともに関係者の方々に対する謝辞等が述べられました。



表彰を受賞された方々
(前列右から森川組様、鈴木港湾空港部長、小針武志様、
北海電気工事(株)稚内営業所様)